

中価格帯のオーダースーツに強み、女性やインバウンド向け顧客開拓進む

投資判断 (12/26)

グローバルスタイル

(7126・東証スタンダード)

新規 Overweight

株価	投資単位	時価総額	年初来高値	年初来安値	PER(予)
1,450円 (12/26)	100株	50.8億円 (12/26)	1,781円 (25/4/24)	1,290円 (25/1/21)	9.1倍 (12/26)

郊外出店や新業態に取り組む、独自のプロモーション戦略も効果

■第1四半期は順調なスタート、インバウンド開拓推進

26年7月期第1四半期の非連結業績は、売上高が2,244百万円（前年同期比7.4%増）、営業損益は207百万円の赤字（同184百万円の赤字）だった。

今期は東京都武蔵野市吉祥寺、大阪府和泉市に新規出店。レディース向けなどの品揃えの拡充に努めたほか、オーダースーツをプロポーズや記念日ディナーなど重要イベントで着用する「ガチスーツ」として訴求する施策にも乗り出している。ショートドラマの作成をはじめとするSNSによるマーケティングを展開していることで、若年層の知名度が上昇し、顧客開拓につながっている。

また、訪日外国人の増加を受け、インバウンド需要への対応も積極化している。免税システムの導入や多言語対応、短納期での商品提供などに取り組む。

■原価高を売上成長でカバー、今期計画は保守的

25年7月期の非連結業績は、売上高11,460百万円（前期比2.6%増）となり、営業利益は801百万円（同27.3%増）と大幅増益だった。

前期は大阪府枚方市や熊本市、さいたま市浦和区などに新規出店したほか、高級品を取り扱う新業態の店舗「Premium Marunouchi 本店」をリニューアルオープン。また、経営効率の向上を目的とした店舗の統合も行った。

物価高騰や円安による原材料価格の高騰、人件費の上昇を受けたものの、店舗増や価格改定などの効果に加え、物流の効率化を進めたことで、営業利益率は7.0%（前期比1.4ポイント増）と大幅に改善している。

26年7月期の連結業績は、売上高12,588百万円（前期比9.8%増）、営業利益は850百万円（同6.0%増）と増収増益を予想する。店舗増や新規顧客の開拓が売上増につながる一方、原材料価格の高騰や円安影響が継続すると見ており、保守的な予想とみられる。

原材料高などの懸念は今期も継続する一方で、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）マーケティングの効果もあり、20-30代の顧客層の開拓が進んでいる。さらには女性向けやキッズ・ジュニア向けのオーダースーツ、シャツなどの販売にも注力しており、インバ



ウンドによる免税売上の増加にも期待が掛かる。

今期の配当予想は開示していないものの、株主還元では配当性向10-20%程度を目安としている。また、保有株数により同店店舗で利用できる優待券を贈呈する株主優待制度も株主に好感されており、株価の下支え材料として意識される。

ウエルスアドバイザー（以下、WA）では、売上成長が原価高などのコスト増をカバーする展開が続き、着実な収益拡大が継続すると予想する。会社計画は新店効果や新たな顧客層の開拓などを慎重に見通していると考えられることから、26年7月期の連結売上高は12,600百万円（前期比9.9%増）と会社計画並みを予想。営業利益率7%程度の維持を想定し、営業利益は900百万円（同12.4%増）と予想する。また、27年7月期にはインバウンド施策等も寄与し、営業利益が1,010百万円に拡大すると見通した。

PERは1ケタ台と競合と比較し大きく下回る水準であることから、現状の株価は評価不足の状態との見方ができる。安定した収益成長を材料に、25年後半に調整した株価の見直し買いが進むと想定される。WAでは27年7月期の予想EPS（188円程度）に対してPER10-12倍を想定し、想定株価レンジは1,900-2,200円、投資判断は新規「Overweight」とする。（片岡利文）

業績動向 (12/26時点)

		売上高 (百万円)	前年比 (%)	営業利益 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)
24年7月期	実績	11,167	7.3	629	▲4.5	656	▲4.7	443	▲6.2	136.9
25年7月期	実績	11,460	2.6	801	27.3	821	25.0	503	13.5	150.9
26年7月期	会社予想	12,588	9.8	850	6.0	866	5.4	355	5.9	159.9
	WA予想	12,600	9.9	900	12.4	920	12.1	560	11.3	168.0
27年7月期	WA予想	14,200	12.7	1,010	12.2	1,030	12.0	630	12.5	188.0

■ 会社概要

「GINZA グローバルスタイル」を主力業態として、オーダースーツ専門点を展開。高品質のオーダースーツを低～中価格で提供している。海外などから独自ルートで生地や素材を調達し、委託先企業で縫製するSPAモデルを展開。店舗網は25年11月時点で41店舗を構える。

同社の特徴は、価格が4～10万円程度の中価格帯オーダースーツにある。多店舗展開する紳士服チェーンの多くは低価格製品の薄利多売を志向しているのに対して、同社は初めてスーツを作る人などに低価格帯の商品を販売し、その上で輸入高級生地など素材を厳選した中価格帯製品を一般的なオーダースーツ店よりもリーズナブルに提供し、顧客の満足度を高めている。

また、前述のSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した宣伝効果もあり、若い世代の知名度もアップしている。20～30代の顧客は全体の5割強に拡大。士業関係者やベンチャー経営者などを中心に、若年層の顧客がさらに広がると期待される。

同社は店舗網を銀座などの都心部から郊外に広げており、今期は東京都武蔵野市吉祥寺や大阪府和泉市に新規出店している。また、最高級グレード「カイザープレミアム」を提供するプレミアム業態にも取り組み、顧客層の拡大を図っている。

■ 事業環境と展望

スーツ需要の減少や、物価高騰を受けた生活防衛意識の高まりなどが懸念される一方、同社では店舗拡大や新業態の開発が続いており、順調な売上成長が継続。同社が強みをもつ低～中価格帯スーツの潜在需要は依然として大きいと考えられる。

また、同社は今期からインバウンド売上の拡大に注力しており、外国語対応の強化のほか、国際配送サービスの開始、滞在日数に合わせた短納期での商品提供などにも乗り出している。さらには、現状は主要顧客が男性であるものの、女性や子ども向けの品揃えを強化しており、これまで既製品が圧倒的に多かった女性向けでは、オーダースーツの潜在需要が大きいと見通している。

グローバルスタイルの特徴



出所:グローバルスタイルホームページからウエルスアドバイザー作成

出店実績とインバウンド需要への対応

【2025年7月期の出店実績】

【枚方モール店】



【COCOSA熊本店】



【浦和パルコ店】



インバウンド需要への対応

- ① インバウンドのお客様向けに免税サービス、国際配送サービスを開始
当サービスの開始により、インバウンド客の来店を促進
- ② 自社サイトの英語表記並びに店舗での対応力の強化
英語対応できる店舗スタッフを配置し、接客対応力を強化



出所:会社資料

リスク要因

スーツを着用しない勤務形態や、私服で勤務する個人が増えていることに加え、コロナ禍によるテレワークの普及にで在宅勤務が増加したこともあり、スーツの需要減少が今後進むとの見方がある。また、少子化に伴う新卒社員の減少や、いわゆる「団塊の世代」の大量退職も販売減の要因として懸念される。さらには、インフレや為替の円高加速による原価上昇が利益を押し下げる材料となり、消費者の生活防衛意識の高まりもリスク要因として意識される。

株主還元 (12/26時点)

■ 配当の状況

		1株当たり配当金		
		中間期末	期末	年間
24年7月期	実績	0	30.0円	30.0円
25年7月期	実績	0	33.0円	33.0円
26年7月期	会社予想	—	—	—

■ 株主優待

同社が運営する国内店舗でのお買い物に利用できる「株主ご優待券」を贈呈。
※権利確定日:7月末日

保有株式数量	ご優待券金額
200株以上	10,000券(税込)
300株以上	16,000券(税込)
400株以上	25,000券(税込)
500株以上	35,000券(税込)

競合他社比較 (赤太字は競合他社に比べ優位な数値) (12/26時点)

		グローバルスタイル (7126・東証スタンダード)	AOKI ホールディングス (8214・東証プライム)	はるやま ホールディングス (7416・東証スタンダード)
基本事項	株価	1,450円	1,822円	718円
	投資単位	100株	100株	100株
	最低投資金額	145,000円	182,200円	71,800円
	決算月	7月	3月	3月
株価指標	PER(予)	9.1倍	16.0倍	22.5倍
	PBR(実)	1.7倍	1.1倍	0.5倍
	配当利回り(予)	—	4.4%	2.2%
成長性	売上高成長率(予)	9.8%	1.7%	3.8%
	営業利益成長率(予)	6.1%	8.7%	0.8%
	EPS成長率(予)	6.6%	0.2%	▲22.6%
収益性	売上高営業利益率(予)	6.8%	8.7%	1.7%
	自己資本当期純利益率(実)	18.7%	6.9%	2.8%
	総資産経常利益率(実)	11.0%	6.3%	2.1%
財務安定性	自己資本比率(実)	39.0%	60.9%	55.6%
	デット・エクイティ・レシオ(実)	32.9%	15.4%	20.2%
	流動比率(実)	105.8%	157.7%	187.3%

競合企業として、紳士服チェーンを展開する AOKIHD (4801)、はるやま HD (7416) を選出した。

■成長性

今期の営業利益成長率は AOKIHD が最も高いものの、グローバルSも6%と伸びが継続する見通し。売上高やEPSの成長率予想は競合を大きく上回っており、各社が原価高や業界全体の競争激化に影響を受ける中で、着実な収益成長を見通している。新業態の開発や都心郊外への店舗戦略、SNSを駆使したプロモーション戦略、インバウンド顧客の獲得など、収益成長が期待される取り組みが目立つだけに、成長継続の確度が高いとみられる。26年7月期業績は保守的な予想を打ち出していることから、今後の上積み期待もある。

■収益性

グローバルSの26年7月期の営業利益率は6.8%を予想。AOKIHDを下回るものの、25年7月期実績の7.0%に近い水準を保っている。過去の決算を振り返っても、中期で利益率が安定かつ向上している点は強調材料。前期のROE(自己資本当期純利益率)は24年7月期に続いて小売業の目安とされる10%を大きく上回っており、総資産経常利益率とともに競合と比較して良好な水準となっている。

■財務安定性

財務安定性の指標では、自己資本比率が39%と、競合のAOKIHDやはるやまHDと比較して低い。ただし財務安定企業の目安とされる30%を上回っており、懸念材料には当たらないと見られる。過去数期に渡り、自己資本比率が高まってきていることも好材料といえる。流動比率も小売業界の目安である100-150%内にとどまっている。また、積極出店を継続している一方で、有利子負債は減少傾向にある。

株主還元では、26年7月期の配当予想を未定としているものの、配当性向10-20%程度を目安としているため、年間配当は増配が期待される。配当利回りも競合他社と遜色がない水準になると想定される。

ウェルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポートの読み方

特 徴

(1) 第三者機関として中立的な立場を重視

ウェルスアドバイザー・エクイティ・リサーチレポートは、ウェルスアドバイザーが位置する中立的な第三者としての立場を重要視し、客観的な比較・評価情報の提供に努めています。ウェルスアドバイザーがカバーする全銘柄に対し、アナリスト個人の見解に加え、複数のアナリストから成る銘柄評価委員会の意見を反映し、投資判断・想定株価レンジ・業績予想を決定しています。

(2) カバー銘柄のユニバース

カバー銘柄は下記対象銘柄から銘柄評価委員会が選出しています。

【銘柄選定基準】

- アナリストのカバー率が低い国内新興市場上場銘柄
- 個人投資家からの人気が高い銘柄（各オンライン証券のデータを参考）
- 時価総額を考慮（50 億円程度以上を目安）
- 整理、監理銘柄や継続疑義、債務超過銘柄を除く

(3) 3 段階の投資判断

カバー銘柄に対する投資判断は、ウェルスアドバイザーの各アナリストによる調査・取材・分析を基に銘柄評価委員会の協議を経て決定しています。下記の基準を基に3段階（最上位から「Overweight」（オーバーウエート）、「Neutral」（ニュートラル）、「Underweight」（アンダーウエート））で予測しています。

Overweight（オーバーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を 15%以上上回ると予測される場合

Neutral（ニュートラル）

今後、半年間の株価推移が現値水準の - 15%～+ 15%にとどまると予測される場合

Underweight（アンダーウエート）

今後、半年間の株価推移が現値水準を 15%以下下回ると予測される場合

ウェルスアドバイザーでは業績見通しや財務状況、株価の値動きなどに関する見解の変更により、機動的に投資判断を変更します。ただし、影響力のある、新しい情報が明らかとなり、判断に時間を要する場合には投資判断を「Under Review」（保留）とする場合があります。また、取引時間中の投資判断の変更は行いません。アナリストが退職した場合などは投資判断をいったん「Suspension」（停止）とする可能性があります。

(4) 中期的な想定株価レンジ

向こう半年間で想定される株価のレンジを示します。株価指標などを用いた適正株価水準のほか、チャートのフシ目や直近の高値・安値、トレンドライン、移動平均線などテクニカル面や価格帯別出来高なども考慮して、中期的な上値メド、下値メドを決定しています。

項目説明

■ アナリストコメント

直近の業績動向や事業環境について、取材に基づいた評価をコメントしています。投資判断の根拠や業績予想に対する見方、今後の事業展望などを記載し、株式投資をするうえで最も重要な情報を掲載しています。また、読みやすさを考慮してテーマごとに2～4つのパラグラフにまとめているほか、重要なポイントを太字で強調しております。

■ 業績動向

通期決算の実績2期分と会社予想、およびウェルスアドバイザーの独自予想を今期、来期の2期分掲載しております。各銘柄への取材に加え、四半期毎での過去の業績傾向やセグメント毎での分析に基づいて業績数値を予測しています。

■ 会社概要

各銘柄がどのようなビジネスを展開しているのか、どこに収益源があるのかなどを詳しく解説するほか、今後どの事業に力を入れていくのか、中期的にはどのような事業展開を図っていくのかなどの中期的な見通しも取材を踏まえて掲載します。

■ 事業環境と展望

各銘柄が属する業界について、足元の状況や将来の成長性などの観点から解説します。競合他社への取材も実施することで業界全体を多面から捉えるほか、業界団体のデータなど具体的な数値も掲載します。

■ リスク要因

各銘柄が有するリスクを解説します。事業面でのリスクに加え、業績面や財務面、株式市場独自のリスクなども考慮して様々な角度から見たリスクを示します。

■ 成長性

今期会社計画の売上高成長率、営業利益成長率、EPS 成長率を競合他社と比較するほか、過去の経緯や主力事業の成長力などを評価します。

■ 収益性

今期会社計画の売上高営業利益率と前期実績の自己資本当期純利益率、総資産経常利益率を競合他社と比較するほか、過去からの収益性の変動などを評価します。

■ 財務安定性

前期実績の自己資本比率、デット・エクイティ・レシオ（＝有利子負債 / 自己資本 × 100）、流動比率（＝流動資産 / 流動負債 × 100）を競合他社と比較するほか、現預金やキャッシュフローなどの観点から財務安定性を評価します。